

第4回 民間投資による良質な都市緑地の確保に向けた評価のあり方検討会

1. 日時

令和5年6月8日（火）10：00～11：45

2. 場所

：国土交通省（合同庁舎3号館）都市局局議室 ※WEB 併用会議

3. 出席委員（五十音順、◎：座長）※はWEB参加

飯田 晶子※	東京大学 工学系研究科 都市工学専攻 主幹研究員
北栄 階一	株式会社日本政策投資銀行 ストラクチャード ファイナンス部 課長 兼 地域調査部 課長
武田 正浩	一般社団法人 不動産協会 都市政策委員会 委員会社 森ビル株式会社 都市開発本部 計画企画部 環境推進部 課長
原口 真	MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社 サステナ ビリティ推進部 TNFD 専任 SVP TNFD タスクフォースメンバー
平松 宏城	株式会社ヴォンエルフ 代表取締役／株式会社 Arc Japan 代表取締役
堀江 隆一	CSR デザイン環境投資顧問株式会社 代表取締役社長
◎柳井 重人	千葉大学 大学院園芸学研究院 教授

4. 議事

中間とりまとめ（案）について

5. 主な発言など

【背景・現状】

- 「緑の充実度や自然災害の経済的リスク等の分野では順位が低い」とあるが、「経済的リスク」に限定しないほうが良い。「経済的」という表現を削除し「リスク」のみの表現としてはどうか。
- 資料3「背景・現状」の中の「ESG投資等の世界的な広がり」においても、「ESG投資」は融資も含む用語として使用する旨の注記を入れてもらいたい。

【評価・認証制度の検討にあたっての基本的な考え方】

- 評価制度にブランディングという言葉が合うか。ブランディングに代わる表現として、信頼性、認知度などの表現にすると良い。

【評価の視点・項目】

- 今回つくる認証制度は、国際目標や国の目標にどれだけ貢献するかが重要で、それらを理解し、達成しようとしているかを投資家等に説明する際に非常に重要である。国の認証制度ができると、この認証をとっていると国の目標達成に貢献していることが一目瞭然に説

明できる。

- マネジメントに係る事項に関しては、気候変動、生物多様性確保、Well-being、地域の価値向上についての目標設定とその結果を示す数値だけではなく、それらを達成するための社内の仕組みができているかを確認することが、緑地の継続性を測る上で非常に重要である。
- 4つの事項（気候変動、生物多様性確保、Well-being、地域の価値向上）と2つの事項（基礎的事項、マネジメントに係る事項）は同じレイヤに並ぶものではない。
- 最近公表された SBTN ver.1.0 の目標の一つに「ランドスケープエンゲージメントに関する目標」がある。これは環境や生物多様性、社会的な成果を達成するために、流域やバイオームなど広域の地理内のステークホルダーと協働することを目標としている。今回の認証制度は、1つの街区を超えて、別の業態や別の地域との連携をしていくというエンゲージメントは SBTN に訴えていくという観点からも非常に重要であり、「地域の価値向上」が別格扱いなのは、その意味でもよいと思っている。
- 評価の視点がいくつあるのかを明確にすべきである。資料3の「評価の視点・項目」の図がややわかりにくく、基礎的事項とマネジメントに係る事項は地域の価値向上の中に含まれているのか、あるいは別の建付けの視点なのかがわかりにくい。基礎的事項とマネジメントに係る事項は資料3では小さく表現されており、また、資料2では箇条書きで示されており、あまり大きく扱われていない。ここは少し表現を変えてでも、この2つが重要なキーワードであることを分かりやすく示すべきである。気候変動、生物多様性確保、Well-being の3本柱をさらに効果的に進めていくために、地域の価値向上、基礎的事項、マネジメントに係る事項も重要であるという言い方であれば分かりやすい。
- 地方都市を含めた都市の骨格をもう一度整備しなおすことも認証制度の大きな目的であり、気候変動対策と生物多様性の確保、Well-being の向上の3つと、さらに基礎的事項とマネジメントに係る事項に取り組むことは、まちをデザインしなおして運営する手段だと捉えることができる。それらの手段を用いた最終的なゴールが地域の価値向上であると捉え、それがどのように成功したかをモニタリングで測るという考え方ならば腑に落ちるのではないか。
- 地域の価値向上は3本柱の効果やインパクトと捉える考え方もあり得る。基礎的事項やマネジメントに係る事項は3本柱の効果やインパクトを評価するためのイネーブラー（enabler）であり、3本柱と同じ次元で記載するとわかりにくくなってしまう。3本柱によって地域の価値向上というインパクトを生むことを狙い、そのために必要な事項は基礎的事項とマネジメントに係る事項、という整理が良いのではないか。
- 委員意見をまとめると、3 + 2 + 1 という構造に思える。気候変動対策、生物多様性の確保、Well-being の向上の3つが柱で、それらの進め方等に関わるのが基礎的事項とマネジメントに係る事項の2つで、最終的な目標や目指す場所が地域の価値向上なのではないか。
- ステークホルダーエンゲージメントが基礎的事項やマネジメントに係る事項と同列に挙げられているが、事業者にとっては実際に何をすべきかわからないのではないか。評価項目に入れるのは実務的にとても難しい。ステークホルダーエンゲージメントは国際的な課題認識を今後の課題に書く方が良い。

【今後の課題】

- 「取組に伴う痛みやコスト」とあるが、「痛み」という言葉はやや情緒的であるため、違う表現に変更すると良い。
- 本認証制度の内容を海外の投資家に知ってもらうため、中間とりまとめを英語でわかりやすく伝えていくことは重要であり、今後の課題として加えるべきである。また、中間とりまとめの英語版を、7月のG7都市大臣会合で示してはどうか。
- モデルケース、パイロットケースとして、募集して、評価項目試案を用いて実験的に評価してみて、どのような結果になるのかを確認することで、より良い制度になるのではないか。
- SEGES は基準をつくったのちに半年程度かけて、企業緑地3～4箇所を審査員による審査や評価シート・マニュアルの検証をした。ABINCでも、企業から何件かの実案件について図面の提供を受けて制度を検証し、妥当な合格点などの検討をした。そのようなプロセスは必要だと思う。特に第三者機関に国が委託する場合には、国が最低限求める要件は定めておかなければならないと思う。
- CASBEE ウェルネスオフィスと、ResReal という認証の立ち上げに関わったときは、20～30件ほど試行した。ある程度の件数で試行しないと閾値などにつき適切な設定にできないのではないか。

【その他】

<全体の構成について>

- 括弧書きで段落ごとの内容を見出しにしており、これはわかりやすいが、全体の構成がわかりづらい。

<語句について>

- SBTN について、もう少しはっきり言及してはどうか。TCFD に関連して SBT がずいぶん広まっていることもあり、TNFD と関連する SBTN についてもどこかでもう少し明確に言及すべきである。

以上